

平成 29 年度

土浦一高通信 桜水 No.4

[定時制特集] (保護者・地域広報版)

発行 県立土浦第一高等学校

TEL 029-822-0137

FAX 029-826-3521

平成 29 年 12 月 12 日

定時制教頭 川上 弘

定時制について

定時制の授業は、夕方 5 時 15 分から夜 8 時 50 分まで、1 日 4 時間の学習活動が行われております。定時制には、異なる年齢の生徒や帰国子女など、多様な生徒が在籍しています。生徒の多くは昼間働き、仕事と学業の両立を目指し日々努力しています。また、3 修 3 卒により 3 年間で卒業するために、夏季休業中等の課外に取り組む姿が見られます。今後とも、地域の皆様並びに保護者の皆様には、本校定時制の教育活動への支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

◆ 新たな一歩 入学式

今年の 4 月、27 人の 1 年生を迎え、全校 92 人で出発した本校定時制は、学びたい、夢をかなえたい、自分を変えたい、という意思を持った仲間たちが、ともに助け合い協力し合いながら、学校生活を送っています。

不登校や長欠を経験した人、日本に来て間もない人、人とのコミュニケーションが苦手な人など、今までの自分から新たな自分への一歩を踏み出しています。



◆ ディズニーランドへGO 校外学習

今年は、全校一斉にディズニーランドへ出かけました。校長先生の心遣いをはじめ、先生方の意気込みで、出かけることができました。

行きのバスの中では、仲の良い友達同士で、おやつを交換したり、好きな音楽を聴きあったりと、盛り上がっていました。園内では、可愛いキャラクターに囲まれ、数々のグッズを身にまとい、持ちきれないほどの土産を手にする楽しい姿が見られました。



◆ 全国大会に行くぞおー 県定通体育大会

今年の夏季定通体育大会は、6 月 4 日(日)に水戸南高校、荃崎高校、石岡総合運動公園を会場に開催されました。本校の卓球部、ソフトテニス部、柔道部、剣道部、バドミントン部、バスケットボール部、陸上部の 7 つの部活動から計 28 人が出場し、日頃の練習の成果を大いに発揮することができました。結果は、卓球男子シングルス、剣道個人、柔道男女個人、男子ソフトテニスの 6 人が全国定通体育大会に出場することができました。特に、ソフトテニス全国準優勝を果たした茨城県の団体メンバーとして新聞でも報道される快挙でした。



◆ ようこそ先輩 講演会

本校定時制第4回卒業の櫻井光孝さんをお迎えして、在校生 92 人に対する講演「私の青春時代」を実施しました。櫻井さんは、茨城県ものづくりマイスター(卓越技能士)の資格を有し、80代とは思えないほどのパワーで、毎日仕事に専念している様子をお話してくださいました。また櫻井さんは、本校の給食室にある校歌のプレートや校長室の机など、多くの木工品を作ってくださいました。さらに講演で櫻井さんは、生徒の皆さんに「人を批判する前に己を省みろ」と、人としての生き方を示してくださいました。櫻井さんの言葉の一つ一つに、生徒に対する期待と思いやりが詰まっているのが感じられました。



◆ 全力プレー今年は2回 校内球技大会

星光祭のない今年は、クラスマッチを2回実施しました。第1回目は6月に球技会として、バスケットボール、バドミントン、卓球、ドッジボールの4種目で行われました。友達と一緒に汗を流し、勝った生徒も負けた生徒も、試合の後には笑顔が輝いていました。生徒会では、2回目を10月にクラスマッチとしてフットサル、トランプ、3人4脚リレー、クイズ大会、大縄跳び、リレーと運動の苦手な生徒にも参加しやすい種目を取り入れ全員参加型の楽しい行事にしてくれました。



◆ 生徒生活体験発表 私の主張

定時制通信制の生徒たちによる生活体験発表会が10月につくば市ふれあいプラザ(荖崎)で実施されました。出場した本校生徒は、中学校時代に経験した友人関係の悩みや、高校に入学して出会った、実の姉妹のように可愛がってくれた部活動の先輩との別れ、そして新たな友人に支えられた今の楽しい学校生活について話してくれました。多くの人を前に、つらい経験を思い出して話すことは、勇気のいったことと思います。これからも、充実した学校生活が送れるように頑張りたいと思います。



◆ 進路講演会 卒業生から熱いメッセージ

今年の進路講演会は、11月17日(金)に全校生徒を対象に給食室で卒業生の社会人2人と大学、専門学校から講師1人ずつをお招きして実施しました。卒業生の森本君は、今年の3月に卒業したばかりの社会人1年目でしたが、会社で必要とされる人材になるには何が大切なのかを、力説してくれました。その話の中に、「 $100-1=0$ 」がありました。100人が努力し成果を上げても、1人のミスや問題によって、結果として効果なし0になってしまうというものでした。会社の信頼を得て認めてもらうための努力と忍耐を、体験を踏まえて話してくれました。また、社会人2年目となる佐藤さんは、製造販売業での苦労話や努力することで認められるという貴重な話をしてくれました。2人の卒業生の話は、在校生に生きた教科書となったことと思います。在校生の生徒たちも将来立派な社会人となってくれることを期待しています。

